

MEET★とんだばやし

～認知症になっても笑顔で暮らせる富田林～

ビジネスケアラー

～介護をしながらやりがいを失わないために～

増加する現役世代の負担

ビジネスケアラーとは、働きながら親の介護などをする人のことです。総務省統計局の調べによると、日本国内で約365万人が仕事と介護を両立しています。年代別で見ると、「50～54歳」が男性88.5%、女性71.8%と最も多く、働き盛りの現役世代が介護を担っている状況がわかります。

ひとりで抱え込まないで相談を

「介護がいつまで続くのか分からなくて将来が不安」「なかなか休めない」と、精神的にも肉体的にも疲弊してしまふことがあります。「どうしよう……これ以上無理」と思ったら、ひとりで抱え込まずに、相談してください。ケアマネジャーが、介護保険制度などを利用し、ピンチを乗り越えるための手段を一緒に考えま

す。また、近くの地域包括支援センターにお気軽にご相談ください。同センターは、高齢者の福祉や介護の総合相談窓口です。高齢者やそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、専門職がサポートします。

○相談窓口

施設名	電話番号	担当地区	開館時間
第1ほんわかセンター	高齢介護課 (内線 196、189)	喜志・第一	午前9時～午後5時30分(土・日曜、祝日を除く)
第2ほんわかセンター	かがりの郷 ☎(25)8205	第二・第三	
第3ほんわかセンター	けあばる、けあばる金剛 ☎(28)8631	藤陽・明治池・葛城・金剛	

介護に関わる休業・休暇制度があります

介護をサポートするための公的な制度や、就労先独自の制度があります。詳しくは右図をご覧ください。



最後に……

大変な介護であっても、介護される人の笑顔や、言葉など、「喜び」や「楽しみ」は必ずあります。

また、助けてくれる人、寄り添ってくれる人もいます。悩んだ時にはひとりで抱え込まないで相談してください。

高齢介護課 (内線196)



本市では、平成31年1月より「富田林市手話言語条例」を施行し、手話は言語であるという認識に基づき、手話への理解促進、手話の普及、啓発を進めています。

耳の聞こえる人は、日本語や英語など「音声言語」でコミュニケーションを図りますが、耳が聞こえない、聞こえにくい人の中には手話をコミュニケーション言語としている人がいます。

手話は手指や体の動き、表情などを使ってコミュニケーションを図る「見る言語」です。手話を覚えて、コミュニケーションを図り、聴覚障がいへの理解を広めていきましょう。

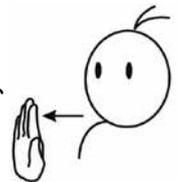
日常でよく使う表現を学びましょう (パート7)

簡単な表現を覚え、挨拶をすることで、お互い親近感が湧き、相互理解につながります。

●ワンポイント手話

・防ぐ

自身に近づいてくるものをせき止める、押し返すイメージ。



・災害

「災」の字をイメージしましょう。左手は親指と小指を立てて、火の部分を表し、右手は人差し指、中指、薬指の3指を立てた状態で「く」の字に書きます。字の通り左手は下部分、右手は上部分を表します。自分側から見て「災」の字になります。



「防ぐ」の後に「災害」の表現をすることで『防災』となります。

災害時にお願いしたい配慮

◎身振りや指さしで危険を知らせてください。

◎口をゆっくり大きくあけて話してください。

◎文字で伝える時は、文を短くしてください。

障がい福祉課 (内線192)